

平成 25 年 3 月 26 日

文部科学省国際統括官付

第 4 回ユネスコスクール全国大会における主な意見

平成 25 年 1 月 26 日に開催した標記大会における主な意見をまとめたものである。

1. ユネスコスクール間のネットワークについて

- (国内) 学校種が異なる学校間の連携は難しいが、外部・専門機関やコーディネーターのような地域人材を活用する方法も有効。
- (海外) 海外留学の機会には個人差があるところ、日本に居ながらもできる国際交流の方法を活用することが重要。

2. 教育委員会間のネットワークについて

- ユネスコスクールは学校間ネットワークといわれるが、教育委員会間においてもネットワーク作りが必要。
- 世界遺産学習連絡協議会は、現在 22 の自治体に参加しており、このネットワークがさらに広がれば ESD の活動の推進にもつながる。

3. 地域（学校、教育委員会、ステークホルダー等）のネットワークについて

- 活動を継続し、ネットワークを構築するためには、双方にとってメリットのある連携とすることが重要。
- 学校の取り組んでいる個々の事柄の「つながり」の「見える化」を図り、全体像の共有化をすることが大切。

(了)